

教職員のIT化から始める学校IT化のモデル研究

千葉県野田市立東部中学校 教頭 中村 司

<http://www3.alpha-net.ne.jp/users/tobujhs/index.html>

mail:nakamura@kouryu.nu

キーワード：IT化, 校務処理, 通知票システム, インターネット

1. はじめに

本校では、平成16年度に校内LANの整備及びPC室のリプレースが行われた。しかし、これまでも整備されている機器が有効活用されていないのが現状であった。そこで、教職員のコンピュータ利用機会を増やすと共に、情報教育のスキルアップを図ることで、情報教育の推進を図ることができると考え、「Eスクエア・アドバンス」の自主企画に応募することとした。

2. 研究の概要

(1) 対象

全教職員及び全学年生徒を対象に研究を進める。

(2) 仮説

①ミレニアム・プロジェクトが述べる機器の整備や教職員個々へのコンピュータ整備、コンピュータが必要な校務体制の整備等、教職員のコンピュータ利用環境を整備することにより、全教職員がコンピュータを利用できるようになる。

また、②教材の作成や授業の方法等において、時間の確保及びサポート体制の整備、公開研究会等の実施により、授業においても、積極的にコンピュータを利用することができるようになるであろう。

(3) 具体的内容

研究の柱として、次の2つを中心に実施する。

①CMIの強化 教職員のコンピュータ利用環境の整備

ア 通知票や出席簿等、校務処理をEXCELにてデータベース化し、校務のシステム化を実現する。

イ 校内HPをたて、日報や週報、諸連絡等、ネットワークでの利用を前提とし、教職員全員の利用を促進する。

ウ 校内LANを拡張し、校内ユビキタス環境の推進を図る。

②CAIの実践 授業でのコンピュータ利用促進に関する研究の推進

ア オーサリング等のグループウェアを中心とした研究会を実施する。

イ 全学級（6学級、5教科）での自主公開研究会（授業公開）を実施する。

3. 成果

これまでの実践により、以下のような成果を得ることができた。

① CMIの強化 教職員のコンピュータ利用環境の整備

ア 通知票や出席簿等、校務処理をEXCELにてデータベース化し、システム化する。

システム化の実現により、所見等の転記や記入、その点検等が簡素化され、「期末処理の時間が格段に減少し、その分の時間を教育相談や面談等を実施することで、生徒等と関わる時間を増やすことができた。

イ 校内HPをたて、日報や週報など、ネットワークでの利用を前提とする。

日報を作成後、ftpソフトでサーバに送信。これにより、教務主任のこれに係る時間を短縮できた、訂正等が簡単になった、紙等の消耗品を少なくすることができたなど、かなりの効果をえることができた。

ウ 校内LANを拡張し、校内ユビキタス環境を推進

各教室に無線LANを設置し、教室から職員室の印刷機に出力するなど、時間を有効に使えるようにした。

また、ネットワーク化することにより、ファイルの共有などについて、いつでもどこでも利用できることの「利便性」「簡易性」等に教職員が気づき、個々の教職員が工夫した活用をするようになった。

② CAIの実践 授業でのコンピュータ利用促進のための公開研究会

ア オーサリング等のグループウェアを中心とした研究会を実施する。

イ 授業公開を実施

東京工業大学赤堀教授を講師に招き、11月18日（木）に、国語（3年生）、社会（2年生）、数学（1年生）、技術（2年生）、英語（1年生）の5教科について公開研究授業を実施するとともに、「情報教育の現状と課題」について講演会を実施し、今後の指針となるお話を聞くことが出来た。

さらに、研究授業に参加した他校の教職員から、授業にコンピュータを利用する方策について参考になったとの感想を得ることができ、有意義な公開研究会となった。